

表1-1 実施計画表

1. 〇年度(事業計画年度)

2. 〇年度(事業計画年度)

3. 〇年度(事業計画年度)

4. 〇年度(事業計画年度)

5. 〇年度(事業計画年度)

2. D. (施策を構成する各事務事業の取組内容・今後の方向性)

コード	事務事業名 (担当課名)	成果目標名 【指標型】	〇年度			目標値 (5年度)	〇年度の 状況	〇年度実施事業に基づく評価結果			
			上段: 成果目標 目標値					〇年度以降の方向性	〇年度以降の方向性		事務事業の方向性を判断した理由 ・目標年次の変更等の理由 等
			中段: 成果目標 実績値						成果	コスト	
重施 01 事 〇〇	〇〇〇改良事業 (事業推進課)	〇〇〇整備進捗状況 (全6工程) 【進行管理型】	3工程 3工程 2,225,017千円	3工程 3工程 2,572,696千円	4工程 工程	6工程(累計) 5年度完了	やや 遅れ	継続	維持 維持	船舶の大型化や施設の老朽化に対応するため、着実に事業を進めていく必要がある。	

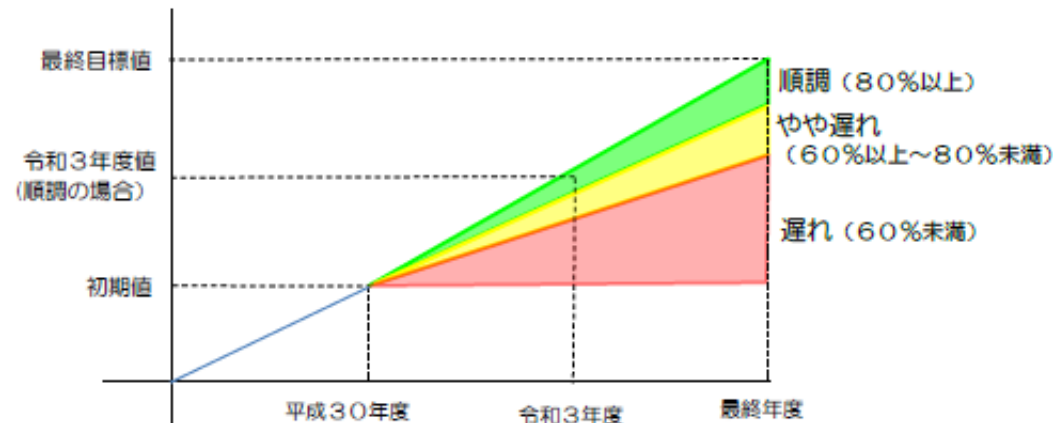
「各年度の状況」の考え方

各年度の状況は下図のような考え方を基本として判定しています。
指標型は「進行管理型」と「単年度管理型」の2種類に分類されています。

「進行管理型」

事業開始等からの累計値
(目標値・実績値)に
よって進行管理する型

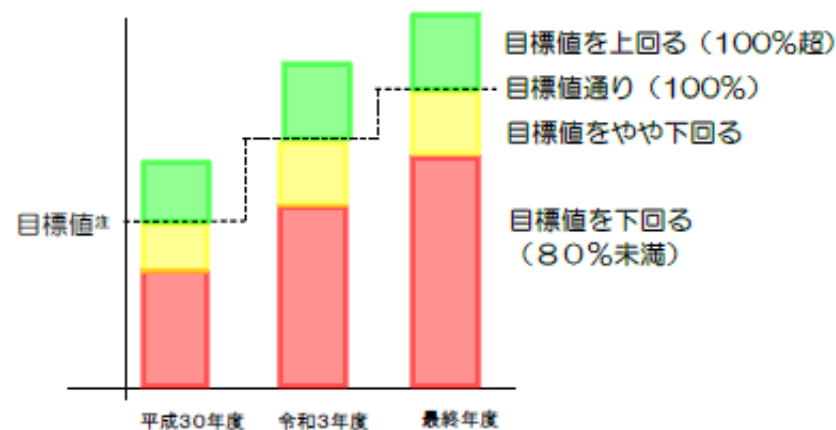
例: 建設・整備事業の
進捗率など



「単年度管理型」

単年度の目標値・実績値に
より目標管理

例: 活動回数、来場者数など



注: 目標値については、5年間一定の場合もあります。

「令和5年度以降の方向性」

・令和4年度の状況を受け、令和5年度以降の方向性を判定しています。

区分	内容
継続	施策の成果向上・維持のため、事務事業を継続することが妥当
完了	目的を達成したため、事務事業を完了することが妥当
延伸	状況を勘案し、目標年度を先送りするもの
休止	状況を勘案し、事務事業を休止するもの
廃止	終期を設定し、事務事業を廃止することが妥当

・「成果・コスト」は、令和5年度以降の取組として資源(財・人)投入をどうしていくかによって、原則、6通りの方向性に分類して判定しています。

